

令和 8 年度 歴史総合+日本史探究 (05コア・02プラス)

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。
2. この冊子は問題21ページです。別に、マークによる解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ 、記述による解答用紙 $\boxed{\text{記述}}$ 各1枚をセットで配付します。
3. 試験開始の合図があったら、問題のページ数を確認し、解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ ・ $\boxed{\text{記述}}$ をミシン目で折ってていねいに切り離し、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ の受験番号欄は、右を参考に記入してください。
4. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
5. 解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ はすべて HB の黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。答えを訂正する場合は、プラスチック消しゴムでよく消して、訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。
6. 解答用紙 $\boxed{\text{記述}}$ は、HB 以外の黒鉛筆(シャープペンシル可)や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。
8. 解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。
9. 使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。
10. 「歴史総合+日本史探究」のコア試験の配点は 100 点、プラス試験の配点は 120 点です。プラス試験の受験生の得点は、コア試験とプラス試験の配点比率に応じた調整を行います。
なお、各問題には、コア試験の配点のみ記載します。

例 受験番号が
0 6 3 7 のとき

受験番号				
千位	百位	十位	一位	
0	6	3	7	
0	●	0	0	0
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	3	●	3
4	4	4	4	4
5	5	5	5	5
6	6	●	6	6
7	7	7	7	●
8	8	8	8	8
9	9	9	9	9

05コア・02プラス

I

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(1)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(2)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(3)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(4)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(5)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(6)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(7)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(8)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(9)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(10)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(11)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(12)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(13)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(14)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(15)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(16)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(17)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(18)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(19)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(20)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ

II

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(1)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(2)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(3)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(4)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(5)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(6)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(7)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(8)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(9)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(10)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ

III

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(1)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(2)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(3)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(4)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(5)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(6)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(7)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(8)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(9)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
(10)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ

良い例	悪い例

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号					
	千位	百位	十位	一位	
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9

総点	
----	--

Ⅳ

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

(6)	
(7)	
(8)	
(9)	
(10)	

評点	
----	--

Ⅴ

(1)	
(2)	
(3)	島
(4)	
(5)	

(6)	
(7)	内閣
(8)	アジア
(9)	不況
(10)	

評点	
----	--

問題は次のとおり。 ジョーは松本にきた

問題は次のページより始まります。

I 次の文章を読み、〔 〕内の語句から最も適切な語句や記述を1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マ-2〕(20点)

日本の歴史を女性抜きで語ることはできない。

「魏志」倭人伝によると、諸国は共同して邪馬台国の卑弥呼を女王として立てたという。卑弥呼は巫女として神の意思を聞くことにたけていたらしく、その呪術的権威を背景に政治を行った。晩年、(1)〔㉠ 末廬国 ㉡ 狗奴国 ㉢ 一支国 ㉣ 伊都国 ㉤ 狗邪韓国〕と争った。そして、247年ごろ亡くなるとされる。

古代の日本は、母系・父系双方の親族集団に属する両属的な社会であり、豊富な経験と統治能力の必要性から、多数の女帝が生まれた。

崇峻天皇の死後、群臣に擁立されて最初の女帝となったのが、推古天皇である。蘇我馬子や甥の厩戸王らが協力して政治を進めた。また、推古朝期を中心に飛鳥文化が花開き、たとえば鞍作鳥が作成したと伝えられる(2)〔㉠ 薬師寺金堂薬師三尊像 ㉡ 法隆寺玉虫厨子 ㉢ 興福寺仏頭 ㉣ 中宮寺天寿国繡帳 ㉤ 法隆寺金堂釈迦三尊像〕がその典型である。

また、同じく女帝である持統天皇はその在位期間中に、(3)〔㉠ 八色の姓を定めた ㉡ 庚午年籍を作成した ㉢ 大宝律令を施行した ㉣ 庚寅年籍を作成した ㉤ 歴史を稗田阿礼に筆録させた〕。しかし、平安初期には女帝が見られなくなる。

そのころ、すなわち奈良時代から平安時代初期までは、夜間に男が女のもとに通って夫婦生活を営み、朝になると自分の家に戻る「ツマ^ど間い」から始まって、通い婚の期間の後に、妻方か夫方に同居となることが多かった。それが平安中期になってくると、貴族層を中心に、娘の父母が娘の結婚相手を決定する「婿取婚」が広まってきた。この「婿取婚」では、女性は常に夫の訪れを待つ身となる。たとえば、(4)〔㉠ 『蜻蛉日記』 ㉡ 『伊勢物語』 ㉢ 『更級日記』 ㉣ 『宇津保物語』 ㉤ 『土佐日記』〕の作者は、夫の藤原兼家がやって来ないことを嘆く歌を詠んでいる。

平安中期、天皇の母となり「国母」と称された摂関家の女性が、子や孫の天皇の後見し政務を補佐した。こうして「国母」の影響力が高まるなか、男性の院に準じた「女院」も創設された。たとえば、上東門院は藤原道長の子である彰子が史上2

人目の女院になったもので、弟の(5)〔㉠ 藤原師実 ㉡ 藤原道隆 ㉢ 藤原忠平 ㉣ 藤原頼通 ㉤ 藤原隆家〕が摂関家を継承することなどに大きな発言力を有した。

院政期には、正式な婚姻儀礼を経ずに院や天皇の子女を産む女性が増えた。彼女たちは子が天皇となった後で后や女院などの待遇を受け、政治に関与した。また、(6)〔㉠ 二条院 ㉡ 建春門院 ㉢ 郁芳門院 ㉣ 八条院 ㉤ 建礼門院〕は父の鳥羽天皇と母の遺領を相続して、膨大な荘園群を所有する。これらは(6)領として、のち大覚寺統の経済基盤となった。

中世となり、武家政権になっても、女性には妻・母・後家として国を動かした。なかでも北条政子は、3代将軍源実朝の死後、幼少の(7)〔㉠ 北条義時 ㉡ 藤原頼経 ㉢ 源頼家 ㉣ 宗尊親王 ㉤ 藤原道家〕を将来の将軍候補として迎え、自身は事実上の将軍（「尼将軍」）として幕政の実権を握った。承久の乱でも、動揺する御家人たちを団結させた。

このころ、すなわち武士が台頭する世になると、夫の親族集団に嫁が入るという「嫁取婚」が主流になった。それに応じて財産相続も「家」の維持継承を重視した嫡男による単独相続へと移行する過程で、女性も生きている間だけ財産を分与されるが、死後は実家に返す(8)〔㉠ 和与 ㉡ 中分 ㉢ 悔返し ㉣ 借上 ㉤ 一期分〕という限定されたかたちに変わっていった。

さて、室町時代において政治に大きな影響を与えた女性は、室町幕府8代将軍足利義政の正室日野富子である。富子は、特に応仁の乱末期には実質的な幕政の指導者となった。この応仁の乱は、かつては富子の子の足利義尚を将軍にすえるべく接近した山名持豊（宗全）が(9)〔㉠ 評定衆 ㉡ 政所執事 ㉢ 関東管領 ㉣ 侍所所司 ㉤ 管領〕の細川勝元と対立したことがきっかけと言われてきたが、近年では虚構であると疑われている。

戦国時代、結婚により他家へ移った女性は、実家と婚家という2つの家の間に立つ人間として家や国どうしの交渉を担った。逆にいえば、実家と婚家が対立すると、それに巻き込まれる女性もいる。たとえば、織田信長の妹のお市は浅井長政に嫁いだが、長政が信長に(10)〔㉠ 小牧・長久手の戦い ㉡ 姉川の戦い ㉢ 稲葉山城の戦い ㉣ 賤ヶ岳の戦い ㉤ 山崎の戦い〕で敗れ、さらにその3年後に

は小谷城で自刃すると、実家に帰された。

さて、近世では2人の女帝が即位しているが、その1人目が明正天皇である。明正天皇の父は後水尾天皇であるが、その後水尾天皇の在位期、(11)〔㉠ 幕府は朝廷運営の基準として禁中並公家諸法度を制定した ㉡ 宗教関係を除いて天皇や公家の行動は自由であった ㉢ 徳川家康は自分の娘和子を後水尾天皇に入内させた ㉣ 朝廷は関東申次を通じて京都所司代と連絡した ㉤ 後水尾天皇は明和事件をきっかけに突然譲位した〕。後水尾天皇の譲位によって、明正天皇が即位する。

江戸幕府では「表」と「奥」の性別分業が推し進められ、正室ら当主家族の女性とそれに奉仕する女中衆は奥向きに限定された。女性が直接表の政治に関わることはできなかったが、奥の人間として政治的に重要な役割を果たすこともあった。たとえば、6代将軍徳川家宣の正室の天英院は、徳川吉宗の8代将軍就任に尽力したために、幕府への発言力を有したと言われる。ちなみに、将軍吉宗は(12)〔㉠ 幕府専売のもとに銅座・真鍮座・朝鮮人参座を設けた ㉡ 都市への無宿人流入を防ぐために旧里帰農令を出した ㉢ 年貢増徴をはかるために定免法を改めて検見法とした ㉣ 物価騰貴対策として株仲間の解散を命じた ㉤ 元和年間以降の触れを類別に編纂した『御触書寛保集成』をつくらせた〕。

近世で固定化される身分は「家」代表者である男性に与えられたため、女性はその制度外に置かれた。ただし、小家族成立の流れのなか、「家」を持つ男女は増加したため、男性優位社会であるものの、夫婦共稼ぎを行い、家計に貢献する女性も多かった。たとえば、19世紀前半から(13)〔㉠ 飛騨 ㉡ 尾張 ㉢ 対馬 ㉣ 薩摩 ㉤ 阿波〕国西部では、綿糸と絹糸とを交織する上級品である結城縞を織る織屋で多くの女性が織女として分業と協業で働いていたことは、『(13) 名所図会』からもうかがわれる。

また近世に女性の公教育はなかったが、家族教育や私塾で学ぶ女性がいた。よって、さまざまな階層の女性たちが、多様なジャンルで自己を表現した。たとえば、(14)〔㉠ 『東海道五十三次』 ㉡ 『十便十宜図』 ㉢ 『富嶽三十六景』 ㉣ 『鷹見泉石像』 ㉤ 『名所江戸百景』〕を描いた葛飾北斎の三女応為も、北斎の肉筆美人画の代作をしたともいわれる。

一方で、遊郭という悲惨な境遇下で生活をする女性も多く存在した。初期の吉原

にいた遊女には、没落した武士の妻女などもいた。それが、後には貧困層の娘などが借金により遊女奉公人のかたちをとって売られたりした。この遊郭を舞台にした戯作文学が洒落本であり、代表的作家の(15)〔㉠ 蔦屋重三郎 ㉡ 大田南畝 ㉢ 為永春水 ㉣ 山東京伝 ㉤ 恋川春町〕は、寛政の改革の際に手鎖50日という厳しい処罰を受けた。

近代に入り、1890年、ボアソナードが草案を起草したフランス法系の民法（旧民法）が公布されると、(16)〔㉠ 穂積八束 ㉡ 松本烝治 ㉢ 美濃部達吉 ㉣ 梅謙次郎 ㉤ 穂積陳重〕が「民法出デ、忠孝亡ブ」という文章を発表、民法が日本古来の家族制度の美風をそこなうと批判した。そのため、旧民法の施行は無期延期となり、1896・98年に公布された新民法（明治民法）では、妻の行為無能力規定がある一方で、戸主が家族の婚姻同意権を持つなど戸主権が絶対となった。

また、1890年の「集会及政社法」によって女性の政談集会や政治結社への参加が禁じられ、それは(17)〔㉠ 第1次山県有朋内閣 ㉡ 第1次西園寺公望内閣 ㉢ 第2次山県有朋内閣 ㉣ 第1次大隈重信内閣 ㉤ 第1次桂太郎内閣〕期の1900年に成立した治安警察法第5条に継承された。

このような状況下で、女性の社会的・経済的地位向上をめぐる議論や動きが見られるようになる。たとえば、自作歌集である(18)〔㉠ 『於母影』 ㉡ 『一握の砂』 ㉢ 『みだれ髪』 ㉣ 『邪宗門』 ㉤ 『若菜集』〕の刊行で反響を得た与謝野晶子は、1910年代末に行われた母性保護論争において女性の社会的・経済的地位向上の方法論をめぐって論争を繰り広げた。

また、平塚らいてう・市川房枝らは1920年、(19)〔㉠ 愛国婦人会 ㉡ 赤瀾会 ㉢ 新婦人協会 ㉣ 青鞥社 ㉤ 婦人参政権獲得期成同盟会〕を設立した。この組織は、治安警察法第5条改正運動を展開した。第5条のうち女性の集会結社のみが法改正で認められて(19)は解散する。

このあと、女性参政権の獲得を目指す運動が続けられたが、成功しなかった。

戦後の1947年、民法はおおはばに改正されて、家中心の戸主制度は廃止され、男女同権の新しい家族制度が定められた。また、1945年12月には衆議院議員選挙法が改正されて、女性参政権が実現した結果、翌年の総選挙では39人の女性議員が誕生した。そのうちの1人である加藤シヅエ（静枝）が所属した(20)〔㉠ 日本社会党

④ 日本進歩党 ⑤ 日本協同党 ⑥ 日本共産党 ⑦ 日本自由党〕は、1945年、片山哲を書記長として結成された政党で、のち講和条約への対応をめぐって左派・右派に分裂した。

Ⅱ 次の文章を読み、〔 〕内の語句から最も適切な語句を1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 マーク〕(20点)

九州地方北部は大陸に近いために、国際関係上の緊張にさらされることがたびたびあった。こうした環境にあったため、古代からさまざまな動乱や外交活動の舞台となってきた。

『後漢書』東夷伝に、使者を派遣して光武帝から印綬を与えられたと記されている奴国も、博多湾に面した地域にあった小国家と考えられている。このときに与えられたと考えられる金印が、現在福岡市の(1)〔㉠ 壱岐島 ㉡ 沖ノ島 ㉢ 志賀島 ㉣ 対馬島 ㉤ 能古島〕から見つかっている。

6世紀には、九州北部に勢力を持っていた筑紫国造磐井が(2)〔㉠ 加耶 ㉡ 百済 ㉢ 高句麗 ㉣ 新羅 ㉤ 渤海〕と結んで反乱を起こした。磐井はヤマト政権が朝鮮半島に送ろうとした軍を阻止するなどしたが、物部麁鹿火らによって鎮圧された。

中国で隋が南北朝を統一し、さらに隋のあと唐が起こると、朝鮮半島諸国は強大な隋や唐の圧力を受け、660年には百済が唐と新羅によって滅ぼされた。百済の遺臣たちから救援の要請を受けた倭では、百済救援のための派兵を行い、(3)〔㉠ 孝徳天皇 ㉡ 齐明天皇 ㉢ 舒明天皇 ㉣ 推古天皇 ㉤ 天智天皇〕は筑紫朝倉宮で指揮をとったが、その最中に亡くなった。663年に倭の水軍は白村江で大敗を喫し撤退した。その後、九州に置かれた大宰府は、外交とともに対外防衛の最前線の役割を担うことになった。大宰府の博多湾側には水城が造営されて防御を固め、百済からの亡命者の技術も借りて基肄城や大野城といった朝鮮式山城が大宰府の南北に造られた。対馬の(4)〔㉠ 金田城 ㉡ 鞠智城 ㉢ 鬼ノ城 ㉣ 高安城 ㉤ 屋島城〕も、このころに造営された朝鮮式山城と考えられている。

対外戦争への備えが重視された大宰府ではあったが、「遠の朝廷」とも呼ばれるほどに都市として発達し、戒壇の設けられた(5)〔㉠ 元興寺 ㉡ 観世音寺 ㉢ 四天王寺 ㉣ 大官大寺 ㉤ 薬師寺〕も置かれた。また、大宰府からはやや離れるが、外交使節の船が着岸する博多湾沿いの場所には、(6)〔㉠ 大輪田泊 ㉡ 迎賓館 ㉢ 鴻臚館 ㉣ 熟田津 ㉤ 松原客館〕が設けられ、使節の応接を担っ

た。① 伊治 ② 大友皇子 ③ 橘奈良麻呂 ④ 恵美押勝 ⑤ 藤原広嗣

大宰府を拠点に反乱を起こそうとした者もいた。大宰少貳だった(7)〔① 伊治 ② 大友皇子 ③ 橘奈良麻呂 ④ 恵美押勝 ⑤ 藤原広嗣〕は、740年に、中央で重用された吉備真備と玄昉の排除を求めて挙兵した。都から鎮圧のための軍が送られると(7)の率いた軍勢は瓦解し、やがて(7)は捕らえられて殺された。この年に聖武天皇は東国行幸を敢行し、そのまま山背国に入って(8)〔① 恭仁京 ② 紫香樂宮 ③ 長岡京 ④ 難波京 ⑤ 平安京〕に遷都した。

大宰府は平安時代に何度かの危機を迎えた。10世紀に起きた(9)〔① 安倍頼時 ② 平忠常 ③ 平将門 ④ 藤原純友 ⑤ 源経基〕の反乱では、大宰府の中心の建物が(9)らの軍勢によって焼かれたようである。また、11世紀には、(10)〔① 高麗 ② 元 ③ 新羅 ④ 宋 ⑤ 刀伊〕の軍勢が対馬や壱岐を襲って、人々を殺害したり捕らえて連れ去ったりした上に、九州沿岸まで攻め込んだ。大宰権帥だった藤原隆家は、九州の武士たちを率いて奮戦し、(10)の軍勢を押し返して大宰府を守り抜いた。

Ⅲ 次の文章を読み、(1)～(10)の空欄および下線部について、下記の設問に答えなさい。〔解答用紙マ-7〕(20点)

1888年、日本はメキシコとの間に修好通商条約を締結した。これは、日本にとって、アジア諸国以外との、初めての、対等な条約であった。日本としては、この対等な条約を、欧米諸国との不平等条約の改正⁽¹⁾を進めるための足がかりとしたいと考えていた。また、中南米諸国との関係を結ぶ端緒ともなり、1897年には日本からメキシコへの移民が始まった。

メキシコに次いで、1895年には日本とブラジル⁽²⁾との間に修好通商航海条約が締結された。その後、1908年に、移民事業を行う日本の会社とブラジル・サンパウロ州との契約が成立し、ブラジルへの本格的な日本人移民事業が始まった。この背景には、次のような事情がある。ブラジル側においては、19世紀末にブラジルで奴隷制度⁽³⁾が廃止された結果、コーヒー農園などで農業労働者が不足していた。一方の日本側においては、それまで日本人移民を多く受け入れていた北米において、移民の排斥や制限を目ざす動きが生じたことから、北米以外の移民先が模索されていた。

1908年、日本から、781名の移民を乗せた最初の移民船・笠戸丸がブラジルに到着した。この笠戸丸は、最初にイギリスで貨客船として建造されたといわれ、その後、ロシアに売却されて「カザン」と命名された。日露戦争⁽⁴⁾時に、「カザン」は、

(5) 港に入港しており、激戦の末、1905年1月に (5) が陥落した結果、日本軍により接収され、「笠戸丸」と命名された。その後、東洋汽船が借用し、日本人のブラジル移民事業に使用されたのである。

のちの1924年⁽⁶⁾、笠戸丸は日本から (7) への「最後の移民船」という役割を果たした。その後、笠戸丸は、漁業のための工船⁽⁸⁾に改造され、日本水産⁽⁹⁾の所属となって、カムチャツカなどで操業され、第二次世界大戦末期、新たに参戦してきたソ連⁽¹⁰⁾の攻撃により撃沈された。

日本のブラジル移民は、契約に基づき、コーヒー農場の労働者として2～3年就業した。この間、過酷な労働と待遇の悪さに耐えかねて、逃亡する者も少なかった。しかし、さまざまな苦難に直面しながらも、自らコーヒー農場を経営した

り，都市に流入して事業を営んだりして，ブラジルの地に定着する者も現れ，次第に日系ブラジル人社会を形成していった。

〔設問〕

- (1) 下線部 (1) に関連して述べた，次の文章の ， にあてはまる語句の組み合わせとしてもっとも適切なものを以下の選択肢のうちから1つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。

外務卿となった井上馨（のち外務大臣）は，先人たちの交渉失敗のあとを受け継いで条約改正交渉を進め，外国人の を認めるかわりに を原則撤廃する改正案を示した。しかし，その後，日本政府内で改正案の内容に対する反対が強まり，交渉は中止された。

- | | | |
|---|-------------|--------------|
| ㉠ | (1a) 領事裁判権 | (1b) 関税自主権 |
| ㉡ | (1a) 関税引き上げ | (1b) 内地通商権 |
| ㉢ | (1a) 内地雑居 | (1b) 領事裁判権 |
| ㉣ | (1a) 内地雑居 | (1b) 外国人判事任用 |
| ㉤ | (1a) 判事任用 | (1b) 軍隊の駐留 |

- (2) 1867年，オランダ製の江戸幕府の軍艦が，下線部 (2) のブラジルのリオデジャネイロに寄港した。幕臣としてオランダに留学し，この軍艦の建造を進めた人物は，戊辰戦争の際，箱館（函館）で戦って政府軍に降伏，のちに開拓使に任官し北海道開拓に努めた。この人物は，海外移民にも関心を抱き，1893年には殖民協会会長となり，中南米などへの移民事業の発展に尽力した。この人物名を，以下の選択肢のうちから1つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。

- | | | | | | | | |
|---|------|---|-----|---|------|---|------|
| ㉠ | 黒田清隆 | ㉡ | 勝海舟 | ㉢ | 土方歳三 | ㉣ | 大島圭介 |
| ㉤ | 榎本武揚 | | | | | | |

(3) 下線部 (3) の奴隷制度に関連して述べた、次の文章の (3a) , (3b) にあてはまる国名・人名の組み合わせとしてもっとも適切なものを以下の選択肢のうちから1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

1872年、(3a) 船籍のマリア・ルス号が日本の横浜港に寄港した際、きわめて過酷な待遇で船内に押し込められていた清の人々 200名余りがいた。このため、南米に向けた「奴隷運搬船」の可能性が高いと考えられたことから、外務卿の (3b) は、神奈川県権令大江卓に対し、同船の清の人々の救済を指示した。大江卓は、人道に反する奴隷契約は無効であると判断し、人々の解放を命じる判決を下した。なお、(3a) においても、19世紀末に日本人の移民が始まり、その後、同国に定着した日系人の子孫は数万人に達し、1990年には日系をルーツとする大統領が誕生した。

- ㉠ (3a) チリ (3b) 副島種臣
- ㉡ (3a) チリ (3b) 寺島宗則
- ㉢ (3a) ペルー (3b) 副島種臣
- ㉣ (3a) ペルー (3b) 寺島宗則
- ㉤ (3a) パナマ (3b) 岩倉具視

(4) 下線部 (4) の日露戦争とその前後の時期の出来事に関して、適切でない記述

を以下の選択肢のうちから1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

㉠ 日露戦争時のロシア皇帝であったニコライ2世は、皇太子時代の1891年に日本を訪問した際、日本の巡査に切りつけられて負傷した。

㉡ 1902年、日本の伊藤博文内閣は、中国東北部に進出してきたロシアに対抗するため、イギリスとの間に日英同盟を締結した。

㉢ 日露戦争の際、日本は、ロシアの中国東北部占領に反対するアメリカ、イギリス両国の支援を得て、戦局を有利に展開した。

㉣ 日露双方とも戦争の継続が困難となったことから、アメリカの仲介によって講和会議が開かれ、1905年9月、ロシアが日本に樺太島の南半分を譲渡する等を内容とする講和条約が調印された。

㉤ 日本では、日露講和条約の内容への不満が高まり、日比谷焼打ち事件などが起きた。

(5) (5) にあてはまる地名を以下の選択肢のうちから1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

㉠ 威海衛 ㉡ 仁川 ㉢ 長春 ㉣ 旅順 ㉤ 奉天

(6) 下線部 (6) の1924年に起きた歴史的出来事として、適切でない記述を以下の選択肢のうちから1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

㉠ 枢密院議長であった清浦奎吾が内閣総理大臣に就任した。

㉡ 清浦奎吾内閣に対して、憲政会・立憲政友会・政友本党の三党は、超然内閣の出現であると批判して、憲政擁護運動を推進した。

㉢ 衆議院議員選挙において護憲三派が圧勝したことを受けて、加藤高明内閣が成立した。

㉣ 首相となった加藤高明は三党の連立内閣を組織し、外務大臣には協調外交を重視する幣原喜重郎が就任した。

㉤ 阪神電車甲子園大運動場（甲子園球場）が竣工した。

(7) (7) では、18世紀末ごろに成立した王国が、19世紀末まで存続した。

19世紀後半の比較的早い時期から、 (7) への日本人の移民が始まり、1886年の移民条約成立後は、移民が本格化し、定着する人々も増加していった。

(7) にあてはまる地名を以下の選択肢のうちから1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

- ① タヒチ ② グアム ③ パラオ ④ フィジー ⑤ ハワイ

(8) 下線部 (8) の工船に関連して、次の文章の (8) にあてはまる適切な語句を以下の選択肢のうちから1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

工船とは、船内に加工設備を持つ漁船であり、工船の中で漁獲物の缶詰などが製造された。カニを加工する工船の実態をもとに、文学作家の小林多喜二は『蟹工船』を執筆、雑誌『戦旗』に発表した。『戦旗』は、1928年に、プロレタリア文学・芸術運動の展開を目ざして結成された全日本 (8) 芸術連盟（略称ナップ）の機関誌として創刊された。

- ① 無産者 ② 労務者 ③ 改革派 ④ 自由人 ⑤ 前衛者

(9) 下線部 (9) の日本水産は、日本産業（日産）コンツェルンを構成する有力企業の一つであった。20世紀初めごろから1930年代にかけて発展したコンツェルンに関して、適切でない記述を以下の選択肢のうちから1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

- ㉠ 日産コンツェルンは、鮎川義介が、久原房之助が興した久原鉱業などを引き継ぎ、日本産業株式会社の傘下に企業群を保有することにより成立し、1930年代に急速に発展した。
- ㉡ 高峰譲吉らの国民科学研究所構想をもとに、1917年に設立された理化学研究所は、財団法人であったが、のちに研究成果を事業化する企業を数多く傘下に設立したことから、理研コンツェルンと呼ばれた。
- ㉢ 野口遵は、九州南部において水力発電を活用して日本窒素肥料を設立、その後、大陸に進出して大規模な水力発電開発を行い、中国国内の興南地域に巨大な化学コンビナートを建設、日窒コンツェルンと呼ばれる企業群を発展させた。
- ㉣ 鮎川義介の日産コンツェルンは、陸軍と協力しつつ、大陸に進出し、1937年に満洲重工業開発株式会社を設立した。
- ㉤ 三井・三菱・住友などの財閥は、経営の多角化を進め、それぞれに持株会社を整備し、株式保有を通じてさまざまな分野の多数の企業を支配するコンツェルン形態を整えていった。

(10) 下線部 (10) のソ連と日本との関係について記述した文章として適切なものを以下の選択肢のうちから1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

㉠ 戦前の日本は、社会主義の浸透を極度に警戒したことから、1925年に治安維持法を制定して社会主義運動を厳しく取り締まるとともに、社会主義国であるソ連の成立を承認せず、第二次大戦後に至るまで日ソ間の国交は成立しなかった。

㉡ 1938年7月から8月にかけて、日本陸軍は、ソ連と「満州国」との国境不明確地帯において、ノモンハン事件と呼ばれる軍事衝突を引き起こした。

㉢ 1939年8月、ドイツがソ連と不可侵条約を結んだことを受けて、国際情勢の急変に対応し得ないとして、近衛文麿内閣が総辞職をした。

㉣ 1941年6月の独ソ開戦を受けて、7月に開かれた御前会議において、日本は「情勢ノ推移ニ伴フ帝国国策要綱」を決定した。その中では、陸軍の強い主張により、英米との衝突が懸念される南方進出を断念し、情勢を見ながら、ソ連に対して武力行使を行う計画が盛り込まれた。

㉤ 1945年5月にドイツが降伏したのを受けて、日本は、連合国との和平交渉の可能性を模索、鈴木貫太郎内閣はソ連に対して和平の仲介依頼を試みた。

Ⅳ 次の文章を読み、(1)～(10)の空欄および下線部について、下記の設問に答えなさい。〔解答用紙記述〕(20点)

中国の銅貨が活発に日本列島に流入するようになったのは、12世紀の後半からだったということがわかってきた。その背景として、1127年に宋(北宋)が金朝に敗れて南遷し、江南の杭州(臨安)に再興された南宋に対する北方からの物流が途絶えたということが推定されている。オホーツク海沿岸のオホーツク文化遺跡からは、北宋銭が出土するのに南宋銭が出てこない、ということが根拠のひとつである。金朝が担っていた満州経由の物流に替わって、南宋では倭人を介して北方産物を輸入するようになり、その対価として南宋銭が日本列島に流入するようになったのだらうという。

1068年に位についた後三条天皇は荘園整理につとめるとともに、(1)を制定した。当時は、朝廷などの公務において収支の物品価値を米に換算して処理していた。朝廷や国司の決算や財政監査のために、米を計量する斛の統一を図ったのだらうという。

(2)の日記『玉葉』の1179年の記事に、朝廷や国府の会計や監査の原則を変更して、収支を銭に換算して決算・監査することを許してはどうか、ということが論議されたとある。宋銭の流通がある程度進んできたことから、税・財政の在り方の変更を検討したのである。(2)は、輸入した異国の銭は日本の朝廷にとっては私鑄銭に等しいものであるから、朝廷・国府の税・財政に宋銭を用いることは認められない、と言い、後三条天皇の財政原則を維持すべきだ、とした。

奥州藤原氏が平泉に居館を移したのは12世紀初頭の頃だと考えられている。発掘調査で、奥州藤原氏は京都風の文化を忠実に取り入れていたことが判明している。

(2)と同時代を生きた奥州藤原氏の3代目(3)が建立した無量光院は、宇治平等院鳳凰堂と酷似する平面プランで建てられている。12世紀後半以降、日宋貿易で砂金が輸出されていることと勘案して、砂金を移出して京風文化を取り入れる、という関係があったのだらうと推察された。

北海道域では、本州域の平安時代まで、独特の文様をもつ「擦文土器」がさかんに作られていた。しかし、鎌倉時代になると「擦文土器」がまったく見当たらず

なる。これは、煮炊きのために、倭人から入手した鉄鍋を使い始めるからだ、と推測された。擦文文化が母体になってアイヌ文化となる過程で、倭人との取引による変容の影響が大きい。アイヌ文化の遺跡はオホーツク文化の遺跡を圧倒して、オホーツク海沿岸に広がっていった。

奥州征討の後、13世紀半ばころまでに、安藤氏が北条氏の代官として津軽に置かれ、アイヌと倭人との交易を監督するようになった。⁽⁴⁾14世紀まで、北海道のアイヌが津軽に渡ってきて取引をしていた。15世紀になると、北海道南部の渡島半島域には倭人の遺跡「道南十二館」が出現した。そのうち、現在の函館空港に隣接する志苔館⁽⁵⁾では大量の中国銭が出土した。アイヌの社会では銭を用いていなかった。アイヌの商品である毛皮・海産物などの対価は、銭そのものは倭人の側にとどまって、倭人の生産した鉄器や米に替えられて、アイヌの社会に供給されたとみられる。

本州域に目を移すと、13世紀半ばには、荘園の年貢が銭に換算されて決済されるのが普通のことになっていた。鎌倉の高徳院大仏は13世紀後半に鑄造されたとみられている。鎌倉大仏の青銅の組成が、当時流通していた宋銭の組成に近似であることが確認されている。銅銭を鑄つぶして大仏を鑄造したと考えられ、当時の日本列島域では銅銭の原料である銅・鉛・錫を自給できていなかったとみられている。銅銭を発行することは難しかったようだ。

1334年、建武政権は貨幣の発行を計画した。⁽⁶⁾『建武年間記』に伝えるところでは、外国の銭を用いることは不当なので、これをやめるためだといい、「乾坤通宝」と名付けた。「銅・楮並用」とあって、銅銭とともに「楮＝紙」の貨幣を作る計画だった。残念ながら、「乾坤通宝」が発行されたということを裏付ける痕跡は見つかっていない。

中国大陆では早くから銅貨を用いた貨幣経済が発達しており、紙幣が併用されるようになったのは宋代からだという。宋代には巨額決済のための約束手形の性質が強かったが、金・元の時代には銀貨との交換を政府が保障した紙幣の性質をもつようになったという。「銅・楮並用」という建武政権の構想は、宋代の紙幣に通じる発想のようだ。⁽⁷⁾

日本列島域で銅の生産が著しく増加したことを確認できるようになるのは15世紀のことである。遣明使節の売り込み品のなかに銅の延べ棒とみられる「紅銅」が現

れる。1433年の遣明使節は4300斤を持ち込んだ。1453年の遣明使節は152,000斤を持ち込んだ。何らかの鉱山開発があつて、銅生産が輸出に廻るほどに増加したとみられる。

日本列島における銅の産出が増加したことを背景として、日本で私鑄銭が作られるようになり、紛争が起きるようになった。15世紀後半に定めた分国法を集めて作られた大内氏の法令集に、商取引の際に悪銭の受け取りを拒否することを禁じる規定がある。

⁽⁸⁾ 日本列島域での銀生産の増加の最初の兆候を記録に残したのは朝鮮王朝である。『朝鮮王朝実録』の1538年の記事に、日本国王の使節が80,000両の銀を持ち込んで返礼を要求したという記事がある。朝鮮王朝は銀取引を禁止したが、日本側はそのあとも銀の持ち込みをやめなかった。朝鮮王朝側では、朝鮮側から銀の精錬法を漏らした者がいるためにこのようなことになったと認識していた。

⁽⁹⁾ この情報はたちまちに中国商人たちの耳に入り、1540年代には多数の中国商人たちが列島域を訪れるようになった。明王朝は自国の民が海に出て外国人と取引することを厳禁していた（海禁政策）ので、日本列島を訪れる中国商人は海賊に類するものとして禁圧の対象になった。いわゆる後期倭寇である。

日本に残る古式鉄砲の実例調査から、着火装置の取り付け位置が欧州人の使用していたものと違っていて、後期倭寇の活動した地域で用いられていた鉄砲と同じであることが指摘されている。日本列島に鉄砲を伝えた人物は後期倭寇の構成員であった可能性が高いと考えられるようになった。後期倭寇の頭目の一人王直は、のち五島列島や平戸に居宅を構えたと伝えられ、大隅国に属するある島の島主

(10) に鉄砲を伝えた人物ではないかともいう。

日本列島は江戸時代を通じて、銅輸出地域として世界第一の位置を占めており、17世紀には銀・金の生産でも世界有数の地位を占めていた。日本産の金・銀・銅は、東アジアの貨幣経済の発展において、重要な位置を占めていたのである。

〔設問〕

- (1) (1) は諸商品の価格の基礎になる米の量を量る枡（マス）である。後三条天皇が制定したこの公定枡の呼称を記しなさい。

- (2) (2) の人物は藤原忠通の子で、のちに源頼朝の推薦で後鳥羽天皇の摂政を務めて、頼朝と協調して朝廷を運営した。この人物の人物名を記しなさい。
- (3) (3) の人物は奥州藤原氏の最盛期を開き、源義経を庇護したことから源頼朝と対立する原因となった。この人物名を記しなさい。
- (4) 下線部 (4) に関して、安藤氏は、14世紀半ばまで津軽半島東海岸の外ヶ浜でアイヌとの交易を取り仕切っていたが、14世紀後半から15世紀半ばまで、津軽半島西海岸に拠点を移してアイヌとの交易に従事した。この津軽半島西海岸にあった港津は、中世日本列島域の代表的な港湾「三津七湊」のひとつに挙げられ、日本海海運の北のターミナルであった。この港津の呼称を記しなさい。
- (5) 下線部 (5) に関して、志苔館は津軽海峡を望む台地の端に築かれた方形居館で、考古遺物から倭人の居館であることが判明している。この館の膝元集落で1457年におこった鉄器の価格を巡る紛争から、アイヌと倭人との大規模な衝突事件に発展した。この蜂起で活躍したアイヌの首長の人物名を記しなさい。
- (6) 下線部 (6) に関して、このとき、後醍醐天皇は自分の皇子を皇太子として定め、その即位儀式の場を整備する事業を起こそうとしていた。貨幣の発行もこれに関連するものではないかという。このとき後醍醐天皇が整備しようとしていた朝堂院（八省院）を中心とする区域の呼称を記しなさい。
- (7) 下線部 (7) に関して、銭は少額貨幣であるために、輸送や管理が難しく、巨額の決済に用いるには不便なものであった。鎌倉時代の日本でも、年貢など巨額の送達・決済のために現物の銭を紙の証文に替えて送り届ける方式が発達していた。この、現物の銭を置き換える紙の証文の呼称を記しなさい。
- (8) 下線部 (8) に関して、円滑な商取引を実現するために、悪銭の排除を禁止して一定の割合で良銭と混用することを強制する法令の呼称を記しなさい。
- (9) 下線部 (9) に関して、石見大森銀山の開発において、精錬法の革新は大きな意味をもっていた。経営に関与した博多商人が技術情報の収集などに尽力したことが想像される。石見大森銀山の産出量を増加させた、新しい製錬法の呼称を記しなさい。

- (10) (10) の人物に鉄砲が伝えられた年次については、1543年とする史料と、1542年とする史料とがあって、問題になっている。(10) にあてはまる人物名を記しなさい。

V 次の文章を読み、下記の (1)～(10) の設問に答えなさい。〔解答用紙記述〕 (20点)

1942年1月の帝国議会において東条英機首相が「大東亜共栄圏」の建設を戦争目的に掲げた日本は、翌年11月に大東亜会議を開催する。この国際会議には1931年よりも前にすでに独立していた (1) , イギリスの植民地になったことがある (2) や自由インド、フィリピンなどの代表者が出席した。

ところがその間にも戦況の悪化が進み、翌年7月には (3) 島の陥落にともなうて、東条英機内閣は総辞職した。それでも戦争は終わらなかった。この年(1944年)の後半から翌年にかけて、本土空襲が激化していった。さらに1945年の4月5日、ソ連が (4) の不延長を通告した。ここにソ連の対日参戦は時間の問題でしかなかった。沖縄戦、広島・長崎への原爆投下、ソ連の対日参戦を経て、日本が降伏を決定したのは、8月14日のことだった。

敗戦国日本は、サンフランシスコ講和会議において調印されたサンフランシスコ平和条約によって、独立を回復する。独立の回復後、日本とアジア諸国の関係は、たとえば1955年にインドネシアの (5) で開催された国際会議に参加したように、改善に向かった。しかしサンフランシスコ講和会議に招かれなかったアジアの2つの分断国家との外交関係の修復は遅れた。朝鮮半島の一方の国とは1965年の (6) の締結によって国交を樹立した。中華人民共和国と国交を正常化したのは、ようやく (7) 内閣になってのことだった。

他方で第2次世界大戦後のアジア諸国は、内戦や民族解放戦争などを経て独立したあと、経済発展を遂げていった。なかでも1970年代に急速な経済成長に成功した韓国・シンガポール・台湾・香港などは、アジア (8) と呼ばれるようになった。対する日本は、日米経済摩擦やバブル経済の崩壊後、1991年前後からいわゆる (9) 不況に陥り、今も経済停滞が続いている。

それでもアジア諸国との和解のためには、「戦後50年談話」において、首相が「植民地支配と (10) によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えました」と謝罪しなければならなかった。

〔設問〕

- (1) (1) にあてはまる国名を記しなさい。
- (2) (2) にあてはまる国名を記しなさい。
- (3) (3) にあてはまる語句を記しなさい。
- (4) (4) にあてはまる条約の名称を記しなさい。
- (5) (5) にあてはまる地名を記しなさい。
- (6) (6) にあてはまる条約の名称を記しなさい。
- (7) (7) にあてはまる内閣総理大臣の人物名を記しなさい。
- (8) (8) にあてはまる語句を英字の大文字4文字で記しなさい。
- (9) (9) にもっともよくあてはまる語句を漢字2文字で記しなさい。
- (10) (10) にあてはまる語句を漢字2文字で記しなさい。